

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ぽっかぽか花巻中央

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500056		
法人名	株式会社 グランツ		
事業所名	グループホーム ぽっかぽか花巻中央		
所在地	〒025-0055 岩手県花巻市南万丁目1163-3		
自己評価作成日	令和2年10月30日	評価結果市町村受理日	令和3年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく朗らかで親しみやすい雰囲気です。「ぽっかぽか」の名に相応しい場所であるよう心がけている。「利用者様、ご家族様の願いを叶える」という理念の下、その方のこれまでの暮らし、性格、趣味、能力を活かし、役割ややりがい、楽しみのある生活が送れるような支援を行っている。今年は「相手を想い、心をつなぐ」をテーマに挙げ、御利用者様の笑顔や能力を引き出し、新しい職員を迎え入れコミュニケーションを大切に取組んでいる。今年はコロナ禍で例年とは違い外出や地域の行事にも積極的に参加する事は出来なかったが、室内でのレクや散歩、ドライブ等工夫をしている。職員に創作活動を企画をして貰い毎月季節をテーマにした作品、手作り昼食の利用者様と一緒に作り楽しみながら笑顔を引き出せるよう取組んでいる。併設の小規模多機能との日常的な交流や合同行事の企画等協力し取組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市の中心部に程近い住宅地にあつて、1階には小規模多機能ホームもある。近くの保育園、小中学校や町内会と密接な関わりを持ちながら運営され、コロナ禍で事業所訪問ができなかった小学生からは、「今年も行き来が良かった」との声が寄せられている。介護に当たっては、職員全員が、どの利用者にも同じように家族として接することが出来るよう居室担当は置かず、全職員が利用者全員を同じように観察し、同じ視点で介護サービスに努めている。また家族と事あるごとに連絡を取り利用者との関係性のみならず、結果として事業所への信頼も高めている。配食サービスを利用しているが、果物など冷凍に馴染まないものを追加して食事に彩りを添え、利用者が食事を楽しめるように工夫を凝らしている。法人の支援により職員が窮屈な状況を脱し、日々の介護を通じ「願いを叶える」とする理念が実践されており、より一層の介護サービスの質の向上が期待される。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年11月24日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「願いを叶える」という法人理念に沿って職員育成を行っている。月例ミーティング、日頃の申し送りにおいて「利用者主体のケア」について実践するよう努めている。認知症介護の基本も重要になっているので日頃から話し合っている。	運営法人の理念を基に、今年の取り組みテーマを「相手を想い、心を一つに」とし、利用者が今何を求めているのかを想い、職員は、その情報を共有しながら心を一つにして介護に携わっている。利用者とのコミュニケーションの始まりとして、出勤時に先ず利用者一人一人に「挨拶」することを全員が励行している。月例の職員会議の席で2、3か月に1度、それぞれの実践状況を振り返りながら、介護サービスの質の向上に努めている。	法人の支援と職員の努力の積み重ねにより、これまで思い描いてきた介護の在り様が一つずつ確実に具体化されてきており、今後とも、理念が目指すものを職員一丸となって実践し続ける事業所として、発展されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	親交会に所属し総会や季節の行事には積極的に参加している他、地域一斉清掃や資源回収にも協力している。文化祭には作品を出品もしている。子供会とも連絡を取り交流を行っている。ボランティア団体からの支援を予定している。	南万丁目町内会に加入し、運営推進会議の委員を務める地域のリーダーの方々の協力を得ながら、近傍にある保育園の年長児や小中学生が敬老会などの事業所行事に訪れ、事業所も地域の文化祭に手作り作品を出品するなどしていた。コロナ禍のため、今年はこれらが中止となり、来訪を予約していた市内の傾聴ボランティアも見合わせとなってしまっている。子どもたちは「今年も行きかった」と話しているとのことである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学時や申込み、相談があった際には、困っているご本人や家族の気持ちに添い、認知症の基本的な知識やケア、環境の大切さ等を事業所の方針と交えて説明している。家族会や運営推進会議の場においても同様に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で隔月ごとに開催。季節の行事や日々の活動報告、実績報告、避難訓練や事故報告、勉強会報告等を行い地域の代表者から意見や地域の行事等の情報交換をしている。	会議は、併設の小規模多機能ホームと同日に、引き続き形で開催し、昨年は職員、利用者も参加し、テーマに応じて消防署員、管轄の交番の所長も出席している。会議ではヒヤリハット等も含めた運営状況を詳らかに報告しながら、安全・安心に関わる課題などの相談を持ち掛け、また地域の情報をいただいていた。コロナ禍のため、3月から7月は書面開催とし、委員には電話で会議資料等に対する意見等を伺っている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい意見交換をしている。運営上の疑問点はその都度確認し、地域住民から率直な市民の意見も聞き、地域で協力体制を築いていけるよう働きかけや困難事例の相談や介護保険外のサービスについての情報共有を行っている。	利用者のお尻が床に着く事象が発生した場合には、大事に至ることを未然に防止する意味からも事故として整理している。その報告や要介護認定申請などで、何かと市の担当課に出向く機会が多い。また運営推進会議に出席していただき、事業所の運営状況を熟知してもらっている。市の担当者には介護保険制度の指導はもとより、運営上の細かいことまで相談に乗ってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には入社時のオリエンテーションにてパンフレットを用いて説明し周知、職員は身体拘束状況やその対策について定期的に勉強会を開催している。日頃から玄関や扉の施錠はせずに職員はセンサーを活用し安全確保、連携を図りながら利用者様の声掛けや見守りを行い拘束は行わない姿勢を行っている。	法人で定めた指針に基づき、委員会は月例ミーティングと併せて3ヵ月毎に開催し、研修テーマの一つに身体拘束を取り上げ年間計画に沿って研修を行っている。介護に困難を極める座位を保てない車椅子利用者についても、身体を拘束することなく、基本に立ち返った介護に徹している。1階に降りる階段ホールの扉は、施錠せずに見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止について勉強会を行い、職員同士確認を行っている。見過ごされる事の無いよう声を掛け合い、先輩スタッフから新人スタッフへの教育を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員はそうした制度に触れる機会もなく、理解が出来ていない。学ぶ機会をもてるようにしたいが、制度が複雑な為、指導できる者がいないのが現状。ご利用者様が制度が必要かを検討する事もあるが、今後研修会を開けるよう検討中。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはサービスの内容、重要事項、料金等の説明を十分に行い、ご本人、ご家族様の不安や疑問点を解消してもらえようように努めている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の生活に関する報告の中で要望等があれば伺うようにしている。また運営推進会議や家族会に参加してもらい、実績、活動報告、事故報告等をし意見を聞き取りたいが、参加出来る家族に限られている。参加できなかったご家族様には電話等で聞き取りを行う事もある。	家族とは事あるごとに電話などで連絡をとり、利用者の生活状況や健康状況を報告し、更に半数の家族が出席する家族会をこれまで毎年2回開催し、意見・要望を伺ってきた。何でも家族の耳に入れるようにしているが、連絡は思わしくないことが発生した場合だけでいいとまで話してくれる家族もいる程である。家族の希望はなるべく「好きなものを食べさせて」とするものが多く、おやつ等として提供している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談等をこまめに実施できるのが望ましいが時間が取れないため、アンケートをとったり、日々の雑談の中で気軽に意見を求める等行っている。またできる限り職員と共に業務につき現状把握やコミュニケーションをとつように努めている。	いつでも職員が直接管理者に意見等を話せる職場環境にある。人員が窮屈な時期と違い、利用者のケアに関する前向きな意見、提案が数多く寄せられ、管理者はその都度解決するように努めている。職員との面談回数が限られるため、必要に応じアンケートの形で職員の意向を確認している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新人職員には職能評価を実施し得意、苦手な事などを明らかにし必要であれば教育を行っている。意欲、能力のある職員に対しては具体的な目標を共に掲げ遣りがいを感じられるよう努めている。職場に対する意見や提案を聞き入れる場として職員にアンケートや面談を持つこともある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月関心のあるテーマに関して勉強会を開催している。また内部研修会において知識やスキルの習得が出来る様にする他、外部で開催される講習会にも参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の他事業所職員との意見交換等ができるよう季節の行事等には職員が交代で参加できるよう取り組める様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族や親類等関係機関からご本人の困っている事や健康状態のほか、生活習慣や楽しみを把握するよう努めている。職員にはご本人が安心出来る環境と耳を傾け寄り添い環境と関係作りを指導している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の相談の段階で誰がどのように困っているのか不安や何を求めているのか話を聞き、要望を伺っている。また介護計画書には、ご本人とご家族から聞き取りを行った意向が反映されている。特に初期の段階では丁寧に連絡を取り合う様に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容が他の居宅介護サービス利用によっても解決可能と考える問題であれば、当法人内のケアマネージャーにも同席や相談を求め必要と思われる支援を検討対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や盛り付け、食器の片付、洗濯物を畳むなどの家事仕事を利用者と共にやっている。また郷土料理、裁縫など生活歴を生かした取り組みから、お互いに学んだり支え合う関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から、ご家族から意向を聞き取るようにしている他、面会時や介護計画書の中で普段の利用者様の様子や通院時の報告を伝えている。体調が不安定な時などはこまめに連絡を行っている。暮らし方や本人の状態について理解してもらうよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族より了解を得たうえで馴染みの方の面会、電話等を受け入れている。また行きつけの美容院や地域の催し物などに外出する機会を設けるようにしている。この数ヶ月外出が難しく、職員が代わりに必要な物品を購入を行っている。	どの利用者も家族が一番の馴染みの人であり、その繋がりを弱めることがないよう、日頃の様子をスナップ写真に記録し、簡単なコメントを添えたA4で1枚の「写真広場」として作成し、2か月に一度家族に届けている。また、家族を始め馴染みの人へ年賀状を出せるよう、文字を書ける方は名前だけでも、書けない方は写真を貼って、職員が代筆するなどして支援している。	

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者様同士でレクリエーションを行ったり外出が出来るように配慮している。また認知症がある利用者様が孤立しないよう、利用者様同士の会話に職員が間に入り関わりを大切にするように心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方からの相談も受け入れ繋がりが切れないうようにしている。季節の行事やレクリエーションに参加してもらったりして職員や利用者様との関係が継続できて喜んでもらえるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族よりお話を聞き、ご本人らしく過ごして貰えるよう、希望に添えるよう努めている。生活歴から想像したり、なじみの場所に足を運んでみる等の工夫を行っている。	午後1時から3時の時間を「ゆっくりタイム」とし、利用者の側に座り、何気ない会話から思いを把握するよう努めている。言葉が不自由な方は動作で訴え、職員は、「いやだ」を意味する、度合いによって異なる動作を理解して介護を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの際、今までの生活の様子をご家族・ご本人から話を丁寧に聞くようにしている。また生活習慣について、地域・家族との人間関係、サービス利用時の様子なども把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りでその日の様子、月例ミーティングで1か月の様子を振り返り、把握に努めている。日々、職員と利用者様との関わりを多く持つように声かけを行い、機能低下や精神状態等の変化があれば気が付くように心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の様子観察で変化がある時は情報共有し対応行い、月例ミーティングで全職員の意見も取り入れた上で介護サービス計画書を作成している。修正の必要があればご本人、ご家族に相談し了承を得た上で改正している。計画書は毎月ご家族へ送付し意見を伺っている。	職員全員が、どの利用者にも同じように家族として接する事業所づくりを進めており、居室毎の担当は置いていない。そのため、毎月のミーティングでは、全職員が行った9人分のモニタリング結果を基礎に、介護計画の見直し等を議論している。見直しの周期は体調の変化等があった場合を除き、6ヵ月を基本としている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別や申し送りノートを活用し情報共有している。ヒヤリハット、レク・外出記録も必要時に記録している。ミーティングでそれらを振り返り、職員で再確認するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院対応がご家族の負担になることも多いと考え、市内の通院は事業所に対応行っている。また外出や外泊、家族がホームに泊まる事も出来る旨を伝え、ご本人と家族の個別のニーズにも応えられるよう、努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人らしく過ごして貰えるよう、ご本人・ご家族よりお話を聞き、希望に添えるよう努めている。生活歴から想像したり、なじみの場所へ足を運ぶ等の工夫を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの市内のかかりつけ病院を継続している。必要に応じて協力病院等に変更する場合には、本人や家族に理由を十分に説明し了承を得たうえで変更し適切な治療を受けられるようにしている。健康管理は看護職員と介護職員で行い、薬の相談はかかりつけ薬局と行っている。	かかりつけ医は原則入居前と同様としているが、職員の通院付き添いを市内のみとしているため、家族の希望で協力医に変更した方もある。かかりつけ医への情報提供に当たっては、管理者と看護師、同行予定職員が、最近の健康状態等を摺り合わせた上で行っている。非常勤の看護師は、服薬管理の他、主治医の指示の下で日中点滴を要する利用者の看護に当たっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝・夕の申し送りでその日の様子、月例ミーティングで1か月の様子を振り返り、把握に努めている。看護職員と必要に応じ相談を行い適切なケアや受診を行っている。日々職員と利用者様との関わりを多く持つように指導し、その中から機能低下や精神状態等の変化があればスタッフ同士声を掛け合い情報共有している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の相談員と連絡を取り経過の把握を行っている。また退院前のカンファレンスに参加し情報集を行い安心して元の生活に戻れるように支援内容の検討、調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化した場合の意向確認を行うと共に施設で可能な支援について説明を行っている。終末期が近づいている利用者様とはかかりつけ医と連携を取りご本人やご家族の意向に添える様に必要な支援を行なう様に務めている。	開設して5年後頃に数件の看取りを行ったが、態勢上の問題もありその後は行っていない。入居時に本人・家族に対し看取りは出来ない旨を説明し、了解を得てきている。医療行為が必要になった場合には、救急搬送を基本としている。協力医療機関の医師から、コロナ禍での受け入れ病院の問題が危惧されるため、事業所として看取りに取り組むよう助言があり、まず看取りの研修に着手している。事業所での看取り介護実施の是非は、法人としての課題と受け止めている。	看取りを行う上での内外の環境が少しずつ整ってきていると思われます。可能な限り事業所での生活を支援するために必要とする研修を進め、一方で、看取り実施の是非についても、事業所はもとより法人全体の視点で検討されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修会にて応用手当を学ぶ機会を設けている他、心肺蘇生の講習や月例ミーティング、勉強会を行い緊急時の初期対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に2回開催し、火災や地震が起きた時の避難誘導等を実施している。訓練には消防職員や地域住民の方にも見学に来てもらい指導や意見を貰っている。	この秋に夜間想定火災避難訓練を行った。事業所が2階にあるため利用者の避難が課題となっており、実際、シーツを活用して4人介助で階段を下すのがやっとなのである。消防からは、署が近傍にあることもあり、非常階段の踊り場への一時避難を指導されている。3日分の食糧を備蓄し、発電機、反射式石油ストーブを備えている。	

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室やトイレ、入浴の際の日常的なケアにおいて排泄内容を暗号化し利用者様の状態や情報等プライバシーに配慮して行っている。業務報告などの際も、利用者様が気にしない様に個人名を出さずにする等の工夫を行っている。	職員間で排泄状況を情報共有する際には、利用者のプライバシーに配慮し、個人名ではなく居室名称やKOTなどの医療用語を用いている。また、生活歴等からかつて従事した職業等を把握し、ちぎり絵、生け花など出来る限り役割を持ってもらい、誇りやプライドを持って生活出来るよう支援している。職員は親しく話せるよう、同じ花巻市内でも出身地によって言葉遣いを代えるように工夫している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の声や仕草による意思の表出を汲み取り、ゆっくりと話ができる時間を設けるよう日頃から努めている。自己決定においても、利用者様ペースで動くよう対応に努めている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活のリズムを尊重し可能な限り対応している。外出やレクリエーション、入浴、食事は無理強いをせず本人の意志尊重し対応に留めている。入浴や食事、レクリエーションの参加を拒まれた場合はその理由や対応方法、改善案などを職員間でその都度情報共有し討議し支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装を共に選んだり、必要な物を購入する際には一緒に買い物している。美容室などは、行きつけがあれば可能な限り継続して利用している。身だしなみへの意識が弱くなっていないか確認しを行い、その方に合わせて必要な支援を行っている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度手作りの昼食やおやつ作り、ご利用者様と相談し一緒に会話を楽しみながら作っている。昼食は利用者様と一緒に取り色々な話をしながら食事を行っている。畑で採れたものを使うなど、食材にも関心を持って貰っている。	配食サービスを利用し、余裕時間を利用者との一緒にの時間に充てながらも、職員が調理に手を加えることを大切にしている。そのため、食事を目で楽しめるよう果物など冷凍に馴染まないものを一品ほど追加し、食事に彩りを添え、月に1回程度は職員と利用者が一緒に作った昼食を楽しんでいる。コロナ禍のため中止となった秋祭りに代え、職員と利用者が余興と食事を楽しみながら、一緒に笑って過ごす室内での忘年会を企画することとしている。

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に逢った食事量や大きさ、食形態に配慮し、声掛けや介助を行なっている。また、食事摂取量や水分量をわかり易く記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後もしくは就寝前に、各利用者様に応じた口腔ケアを行っている。時間を見ながら仕上げ歯磨き等も行い必要に応じ歯科受診を行い、義歯や口腔衛生のなど口腔状態を良好に保つよう努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄リズムを把握し、トイレへの誘導を行っている。排泄リズムを自身で把握できない方に関しても声掛けを行っている。また、トイレでの排泄が難しい方には定期的にパッドを交換を行うなど清潔保持をするよう努めている。	排泄チェック表は体調不良の場合とし、通常は食事とおやつの前後にトイレ誘導を行っている。自力で立つことが出来ない名を除き、布パンツ又はリハビリパンツの使用を問わず、トイレで排泄している(夜間3名が入居前からの習慣でポータブルトイレを使用)。利用者のプライバシーや心情に配慮し、排泄介助を短時間で出来るよう複数の職員によるトイレ介助も導入している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は業者を使用しており、味噌汁等に野菜やデザートに果物等の食物繊維の多い食品を毎日摂れるよう献立に組み込んでいる。また、水分不足にならないよう補給の時間を設けている他、運動不足にならないよう運動する機会を設けるように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴を勧めながらも、無理強いせずに時間帯などを利用者様の希望に沿う形で支援するよう心掛けている。	週2回を基本としながら3回以上の入浴が出来ており、レクリエーションやドライブに充てる午後を避け、午前中に入浴としている。利用者にとっては、職員を独占出来る一対一の会話の時間になっている。浴槽を跨げない方は、1階の小規模多機能ホームにあるリフト浴を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体操やレクリエーション、創作などに取り組んで頂けるよう声掛けや参加を促す事で夜間の睡眠に繋げるよう工夫を行っている。お昼寝を希望される方には縛りをせずに休んで頂いてる。また、夜間眠れないご利用者様の対応としてお話を聞く等見守りを行っている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院や服薬などの情報をまとめたファイルなどを確認し、各自情報共有に努めている。服薬の手順を確認し、服薬忘れ等に注意しながら服薬介助を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人一人の得意、不得意を知りスタッフ同士で情報共有する事で家事手伝いや創作等の際に作業をお願いし、必要に応じて支援や声掛け、見守りを行い作業に取り組んで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿えるように施設周辺の散歩、市内のドライブ等地域のイベント参加等、気分転換や楽しみに繋がる外出支援を行っている。	コロナ禍のため、職員と食料の買い物に出掛け、利用者が野菜を選ぶ仕事が無くなり、個別の買い物も出来なくなっている。それでも、利用者がストレスを溜めないよう、外気浴を兼ねた戸外での日光浴や菜園の草取り、前よりは少ない散歩のほか、お花見、紅葉狩り等の季節のドライブに連れ出している。コロナ禍の自粛が緩和された時期には、家族とドライブに出掛けたり外泊する利用者もいた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所にてお小遣いをお預かりし管理しているが、敷地内にある自動販売機にて好みの飲み物を選んで頂く等の支援や買い物の際に本人様お気に入りの日用品や嗜好品の購入を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの了承を得た上で、今までのなじみの方からの手紙や面会、電話等を受け入れている。また、手紙の返事や年賀状を書いたりする支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの明るさや室温、湿度、職員の足音や話声が不適切ではないか注意している。トイレの臭いも気になるので清潔を保つように配慮している。リビングには季節感のある創作物や行事の時の写真を飾るなどして装飾し、無機質にならない様に気を付けている。	快適に過ごせるようフロアに明るい照明や加湿器が用意され、一角には和室もある。フロアでは利用者の方々の創作活動が行われたり、和室でお昼寝をする人もいるなど、利用者の方それぞれが自分のペースで楽しくリラックスして過ごせるよう配慮されている。創作活動の作品、書初めやちぎり絵などをホールに飾っているが、今年は施設の窓などを利用して『作品展』として、地元の方が通る際によく見える場所に展示し、披露している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりの和室や食卓以外の場所でも過ごせるよう椅子を置いたり昼寝用座布団を置いたりしている。ベランダ前は大きな窓があるため景色を見ながら利用者様同士やスタッフとゆっくりお話しすることも多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用の際には、ご家族に使い慣れた馴染みの調度品を持参して貰うようにお話し、ご家族とご本人、職員が一緒になって片付けや掃除、飾りつけをし居心地良く暮らせるように工夫している。職員からの色紙やカード、家族の写真なども飾っている。	それぞれの居室にエアコンやベッドが備え付けられている。居心地よく過ごせるよう整理整頓されている居室は、家族の写真やカレンダー、テレビや時計など思い出の品や自分好みの物などが揃えてあり、明るく清潔感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室や玄関にはスロープや手すりを設置し、ベットには介助バーを取り付け安全の確保と自立の促進に努めている。1階と2階の移動には階段とエレベーターがあり、利用者の能力や状態に合わせて使用している。		